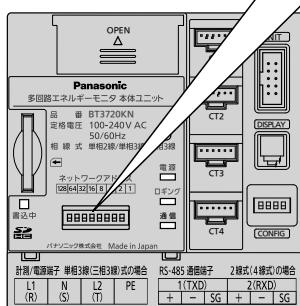
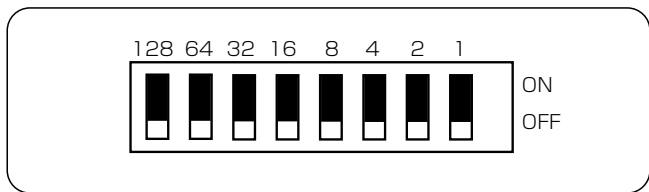


2-4 ネットワークの接続方法

ネットワーク諸設定

① ネットワーク用アドレス設定スイッチの設定

ネットワーク用アドレスは、本体ユニットのディップスイッチで設定します。



◆アドレス番号は、「ON」にしたディップスイッチの番号、またはその合計です。

例) 4 = 4
5 = 1 + 4
7 = 1 + 2 + 4

ご注意

1. アドレス番号に「0」は使用しないでください。
(0にすると通信機能が無効になります)
2. アドレス番号は重複しないように設定してください。
3. 設定できるアドレス番号は、上位機器側で制限があります。
接続可能台数などの機能制限は上位機器側の仕様をご確認のうえ設定してください。
(設定可能なアドレス番号は「1」～「31」です)
4. アドレス設定を変更する時には電源を「OFF」にし、アドレス設定変更後再度電源を「ON」にしてください。
(電源投入中にアドレス設定を変更するだけではアドレス設定変更は認識しません)

② 通信方式選択スイッチの設定「CONFIG」

・2線式 EMIT プロトコル、MEWTOCOL プロトコルの場合

終端抵抗ありの場合



終端抵抗なしの場合

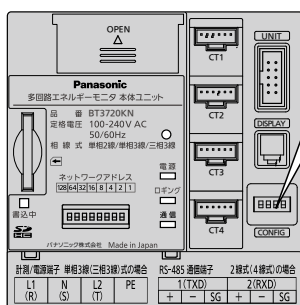


・4線式 WH プロトコルの場合

終端抵抗ありの場合



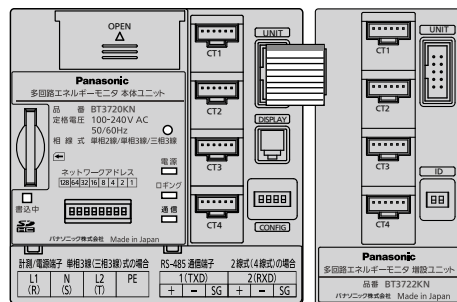
終端抵抗なしの場合



ネットワーク配線の接続方法(2線式・4線式)

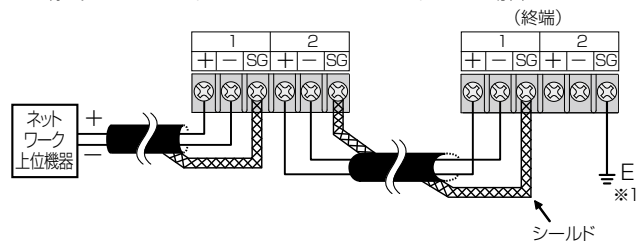
ネットワークシステムとして使用するには、ネットワークの接続と、ネットワークの諸設定と通信設定が必要です。下図のように RS-485 信号線を接続し、本体ユニットのネットワーク用アドレスを設定します。

ネットワーク終端の本体ユニットには、終端設定が必要となります。(終端抵抗は、本体ユニットに内蔵しています)設定方法は左記を参照してください。



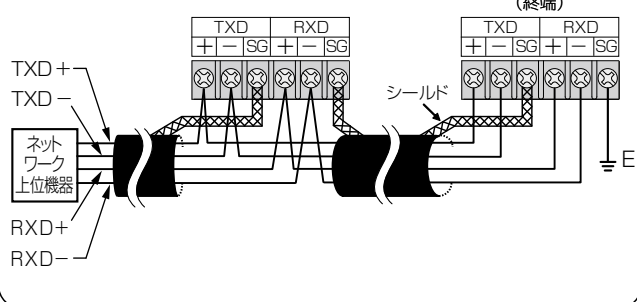
RS-485 の信号線には $\phi 0.65 \sim \phi 1.25$ (推奨 $\phi 0.9$ 以上) の CPEV 線 (シールド線付き) を使用してください。

・2線式 EMIT プロトコル、MEWTOCOL プロトコルの場合



※1) シールド線の終端は、ネットワーク上位機器の処理方法に従ってください。

・4線式 WH プロトコルの場合



ご注意

1. ネットワーク配線 (RS-485 信号線) は強電部 (電源系配線) とできるだけ離して配線してください。(ノイズ対策のためです)
2. RS-485 のシールド線は終端の本体ユニット端子より一点接地してください。(一点接地しないとノイズの影響により通信エラーが発生する場合があります)
3. RS-485 信号線を配線する場合は、落雷被害を軽減するような配線 (経路など) を検討してください。または他社製避雷器 (SPD) ※2 の設置を推奨します。
落雷が発生すると、発生した過電流や過電圧が電源線や RS-485 信号線などを伝い、本製品の故障の原因になることがあります。
※2) 別途ご準備ください。

概要編

モーター
多回路エネルギー

施工編

エネルギー
S

商品編

デマンド
ウォッチャー

商品編

LAN
対応

商品編

電カメ
ーター

商品編

システム編

付録